

「遺言」

わたしが死んだら、
なつかしいウクライナの
ひろびろとした草原（ステップ）にいだかれた
高き塚（モヒラ）の上に 葬ってほしい。
果てしない野の連なりと
ドニエプル、切り立つ崖が
見渡せるように。
哮（たけ）り立つとどろきが聞こえるように。
ドニエプルの流れが
ウクライナから敵の血を
青い海へと流し去ったら、
そのときこそ、野も山も――
すべてを棄てよう。
神の御許（みもと）に翔けのぼり、
祈りをささげよう……だがそれまでは
わたしは神を知らない。
わたしを葬り、立ち上がってほしい。
鎖を断ち切り、
凶悪な敵の血潮で
われらの自由に洗礼を授けてほしい。
そして、素晴らしい家族、
自由で新しい家族に囲まれても、
わたしを忘れず、思い出してほしい、
こころのこもった静かな言葉で。

1845年12月25日 ペレヤスラウにて

訳/藤井悦子